史跡荒屋敷貝塚の位置付け

斎　木　　勝

目　　次

1．はじめに ……463

2．荒屋敷貝塚の位置 ……464

3．荒屋敷貝塚の調査史 ……464

4．遺跡の保存問題 ……466

（1）全国の道路建設に伴う遺跡保存問題 ……466

（2）荒屋敷貝塚の保存経過と日本考古学協会の保存要請活動 ……469

5．終わりに ……473

1．はじめに

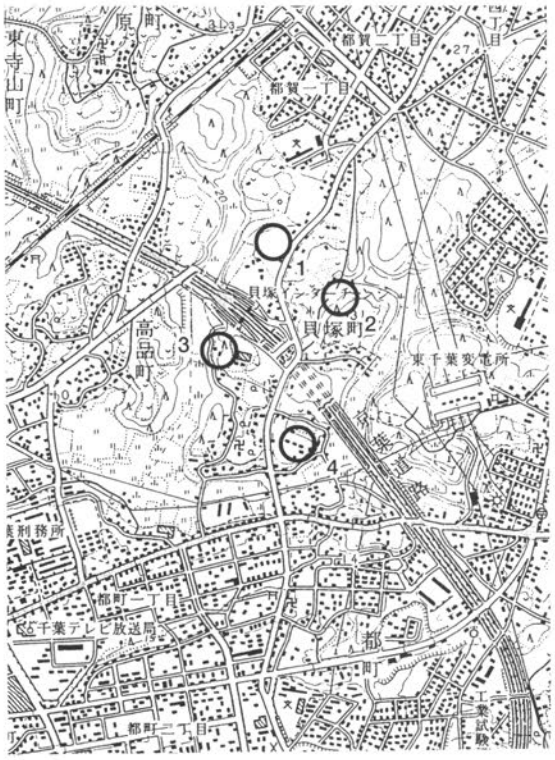
千葉県文化財センターは，2004年11月に創立30周年を迎えた。その間に調査した遺跡は1,900遺跡にのぼり，約1,500万m²の膨大な面積を発掘調査している。

この1,900遺跡のほとんどは，開発に伴う記録保存の調査が行われた遺跡であり，調査終了後には造成工事のために消滅しているのが現状である。しかし，千葉市に所在する荒屋敷貝塚は，高速道路建設と遺跡の保存という相反する状況の中で，調整機関の県教育庁文化課（当時）は，文化庁及び千葉市教育委員会とその保存の方法を協議していった。そして，3次に及ぶ発掘調査を経て，トンネル工法で損壊せずに保存されることになった。

その後，荒屋敷貝塚は，発掘調査成果を踏まえた上で1979年3月13日に国史跡に指定された。

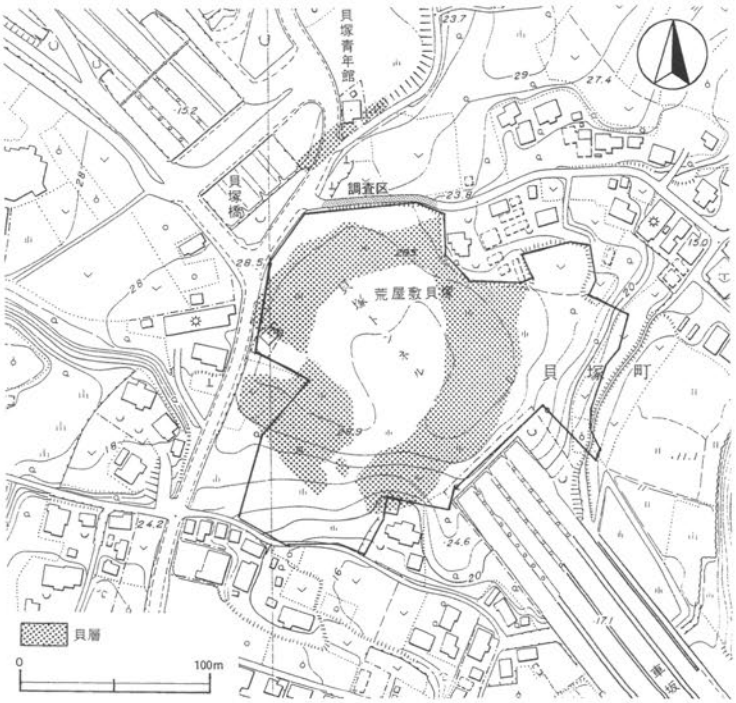
本稿の趣旨は，考古学的な遺跡・遺構の検討というより，高速道路建設という公共事業に直面した遺跡を，どのような経過で保存へと導いたかを整理しようとするものである。

筆者は，貝塚をトンネル工法で保存しようとする事業計画の，第3次荒屋敷貝塚発掘調査を種田斉吾氏（現松戸市立小金北中学校校長）と担当した。調査後は何度も遺跡を訪ねたが，貝層下に貫通した片側2車線の京葉道路は，途切れる間もないほどの交通量であった。そして，目を貝塚に転ずれば，微妙に高まりを持ちながら環状に巡る貝層部が確認でき，調査した中央地点は埋め戻され，搬入された土壌により植相が若干異なる景観を呈していた。このように部分的な発掘は行われたが，そのほとんどは破壊を免れて遺存している貴重な貝塚なのである。



第1図　遺跡の位置（1/25,000千葉東部）

1 草刈場貝塚　2 荒屋敷北貝塚　3 荒屋敷西貝塚
4 台門貝塚



第2図　荒屋敷貝塚の現状（佐藤順1999に加筆して作図）
※太線内国指定史跡範囲

2．荒屋敷貝塚の位置

荒屋敷貝塚が立地する舌状台地は，全体に35ヘクタールの面積を持ち，北方450mには草刈場貝塚，北北東方250mに荒屋敷北貝塚[1]が，西方300mには荒屋敷西貝塚，南方200mには台門貝塚が所在し貝塚町貝塚群[2]を構成する（第1図）。

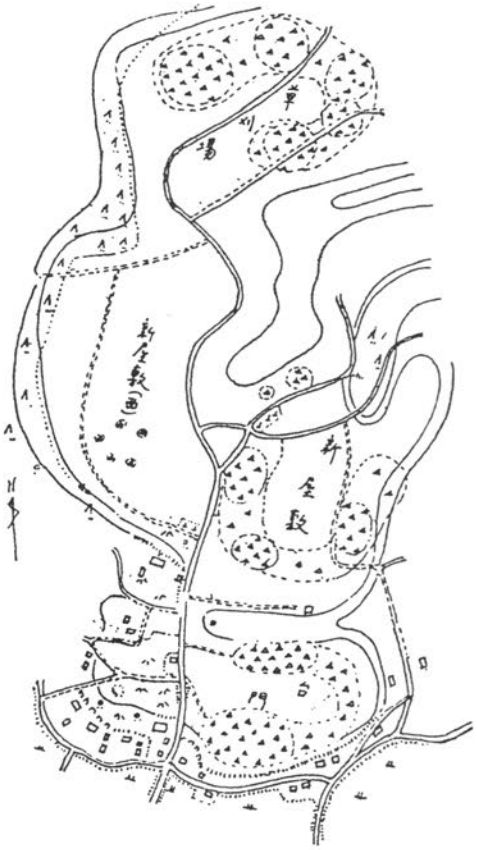
第2図は荒屋敷貝塚直下に京葉道路が貫通した現在の地形図[3]である。貝層部地上標高30.0m，道路面標高17.1mであることから，この12.9mの厚さの中に道路トンネル部と貝塚等遺構が含まれている。

第3図は，1951年（昭和26年）当時に貝塚町貝塚群がどのように把握されていたかを示す図である[4]。酒詰仲男によると，荒屋敷貝塚は当時，「新屋敷貝塚」とされ，貝層はU字形に北側に開口する馬蹄形を示す貝塚と捉えられていた。新屋敷貝塚という名称は『日本貝塚地名表』（1959）でも記載されている。

3．荒屋敷貝塚の調査史

年代を追って，荒屋敷貝塚に係る調査歴を概観する。

1947年（昭和22年）皇太子殿下来跡，長谷部言人，山内清男の指導で学習院中等科が試掘を実施。



第3図　1951年当時の貝塚群把握図
（酒詰仲男1951のP10，第5図より）

第4図　千葉市立加曽利貝塚博物館における地形測量（千葉市史1976より）

1968年（昭和43年）加曽利貝塚博物館が荒屋敷貝塚地形測量を実施（第４図）。

1973年（昭和48年）12月17日から翌年２月３日まで，千葉県都市公社文化財調査事務所が貝塚の分布範囲等の確認調査を実施[5]。

成果：東西約160㍍，南北約150㍍，南に開口する馬蹄形貝塚，縄文時代中期（阿玉台式，加曽利Ｅ式），後期（堀之内式）に形成，貝塚中心部に無遺構部が所在，その周囲に土坑，住居跡を確認。

1975年（昭和50年）11月17日から翌年１月29日まで，貝塚部分に高架橋を架設することで現段階の最善策であるとの協議結果に基づき，その部分となる貝塚外縁部の発掘を千葉県文化財センターが実施[6]。

成果：西側橋脚部分―縄文時代中期（加曽利ＥⅡ）の小地点貝塚

東側橋脚部分―上層に混土貝層，縄文時代中期の小土坑２基を確認

また，以下の分析調査を実施した。

1）熱ルミネッセンス法による出土縄文土器の年代測定

西側－加曽利Ｅ式土器　Ｂ．Ｐ．4030，阿玉台式土器　Ｂ．Ｐ．4410　という結果。

2）貝塚出土丹彩土器の朱色塗料について

加曽利ＥⅡ式土器の朱色塗料の材質は，赤鉄鉱（ベンガラ）という結果。

3）貝塚Ａ・Ｂ地点出土黒曜石の分析

縄文中期末葉の頃，箱根地方（４点）と神津島（25点）から搬入された可能性，信州系は認められず。

4）貝塚周辺の関東ローム層についての鉱物組成

＊ローム層出土の遺物はない。

5）貝塚出土の貝類

24種確認。

6）小穴内貝層における貝類組成と採集季節

西側－春先から冬の初めまでの季節の貝類が含まれ，中でも春期が全体の70％以上を含める。貝類組成では，イボキサゴが突出して多く[7]，ハマグリが続いて多い。

7）貝塚出土獣骨中のウランについて

西側―ウラン含有量にかなりの差異があり，獣骨は時代幅をもっている可能性がある。

8）貝塚採集の魚類遺存体

西側―イワシ類、ウナギ類、サバ類，アジ類，スズキ類，タイ類確認，アジ・イワシ類などの小形魚が相当量持ち込まれていた。魚類の体型・生態・体長の大小，遊泳層の分布等一様でないので，漁法，漁具の使い分けの可能性あり。

9）貝塚の花粉分析

西側混貝層－モミ属，スギ属，ノグルミ属，マツ属，カバノキ科，エノキ科，アカバナ科，ナデシコ科を確認。

10）貝塚の14Ｃ年代測定

西側―加曽利ＥⅡ式土器を伴う地点貝塚のハマグリ，4260±95年という結果[8]。

1977年（昭和52年）４月18日から同年９月16日まで，トンネル方式採用に伴う事前発掘調査を千葉県文化財センターが実施[9]。

成果：東側縦坑部，古墳時代中期の住居跡２軒

貝塚中央部，縄文時代中期の住居跡３軒（中期前半１軒，加曽利EⅡ２軒），土坑78基検出

また，以下に示す分析調査を実施した。

1） 放射線炭素年代測定

遺構出土貝（加曽利Ｅ期）２点，4090±110，4480±130という結果。

2） 縄文中期，阿玉台新段階から加曽利Ｅ期前半の小竪穴２か所から出土の人骨を分析

① 東頭位の右側臥屈位の成人，遺存部位は頭蓋と頚椎，歯であるが微細破片のため，性別年齢等不明。

② 壮年期の男性，屈葬か。遺存部位は頭蓋，歯，上腕骨の一部分であるが保存状態が不良のため，詳細は不明。

1980年（昭和55年）東北部の貝層部を千葉市立加曾利貝塚博物館が緊急発掘[10]。

成果：貝層断面等から荒屋敷貝塚の形成は阿玉台期に始まり，中峠期・加曽利ＥⅠ・ＥⅡ期までと考えられる。

1997年（平成９年）12月１日～1998年１月14日　千葉市文化財調査協会が貝塚北側の側溝工事に伴う調査を実施[11]。

成果：縄文土器出土

1998年（平成10年）貝層範囲ならびに遺構等を探る確認調査を実施[12]。

成果：貝塚西側，貝層の分布限界，縄文時代住居跡２軒，土坑２基を確認。

貝層のサンプリング調査を実施，イボキサゴが突出して多く，次いでハマグリが多い。他にマガキ，アサリ，アラムシロ，ウミニナ等を確認する。

４．遺跡の保存問題

（１） 全国の道路建設に伴う遺跡保存問題

荒屋敷貝塚の保存の動きを全国的な観点で位置付けるために，道路建設に係る遺跡の保存状況を第１表に取りまとめた。そのような動向により，開発か保存かというような二者択一ではない新たな対応策が求められていったのである。

早い段階で保存対策を措置した遺跡には，静岡県の登呂遺跡があげられる。この遺跡は，1952年３月29日に11,600m²が史跡に指定され，同年11月22日に特別史跡に指定された。その後，静岡市では史跡隣接地を購入した。1965年，東名高速道路予定地の発掘調査が始まり，水田跡が予定地まで広がっていることが確認されたことにより遺跡を高架構造で保存することになった[13]。

次に保存対策が実施されたのは，宮城県古川市の宮沢遺跡である。55,516m²の奈良・平安時代の城柵跡，官衙を盛土下に保存し，1976年７月に国史跡に指定された[14]。

次は熊本県塚原古墳群で，131,793m²の古墳時代の墳墓群をトンネル工法で損壊せずに保存した[15]。1976年12月の指定である。

続いて指定されたのは，本稿の荒屋敷貝塚である[16]。大規模な縄文時代中期の貝塚をトンネル工法で損壊せずに保存した。道路建設でトンネル工法を用いたのは塚原古墳に続いて２例目である。なお,この

第１表　　道路建設に係る遺跡の保存状況

史　跡　名	所　在　地	保存　内容	時　　代	史跡指定日	指定面積（㎡）	指定　区分	参考文献
荒屋敷貝塚（あらやしきかいづか）	**千葉県千葉市貝塚町726－1**	**トンネル工法**	**縄文時代中期の貝塚**	**1979. 3.13 1982. 9. 2**	**21,836.09 1,163.56**	**国指定史跡**	**種田・斎木 1978他**
志波城跡（しばじょうあと）	岩手県盛岡市	盛土構造の一部を高架橋	平安時代初期（９世紀前半）の城柵跡	1984. 9.14	653,977.64	国指定史跡	津嶋知弘他 1999
宮沢遺跡（みやざわ）	宮城県古川市	盛土下に保存	奈良・平安時代初期の城柵跡，官衙（東西1400m，南北850m）	1976. 7.13 1989. 8.14	55,516.0 22,340.0	国指定史跡	斉藤吉弘他 1980
下谷地遺跡（しもやち）	新潟県柏崎市	盛土構造の一部を高架橋に変更	弥生時代中期の集落跡	1979. 6. 4	56,758.15	国指定史跡	
日高遺跡（ひだか）	群馬県高崎市	盛土構造の一部を高架橋に変更	弥生時代の水田跡	1998.12. 8 2000. 3. 7	16,351.90 353.0	国指定史跡	群馬県教委 1982
中高瀬観音山遺跡（なかたかせかんのんやま）	群馬県富岡市	トンネル工法	弥生時代後期の大規模集落跡（東西200m，南北350m）	1997. 3.17	47,329.25	国指定史跡	坂井隆也編 1995
阿久遺跡（あきゅう）	長野県諏訪郡原村	盛土下に保存	縄文時代の集落跡	1979. 7. 2	55,948.87	国指定史跡	長野県中央道調査他 1978
登呂遺跡（とろ）	静岡県静岡市	高架橋に変更	弥生時代の水田跡	1952.11.22 1978.12.21	11,600.0 48,300.0	国指定史跡	岡村渉2000
私市円山古墳（きさいちまるやま）	京都府綾部市	トンネル工法	古墳時代中期（５世紀中頃）の大規模円墳（径70m，高さ10m）	1994. 3.23	13,069.02	国指定史跡	
久保泉丸山古墳（くぼいずみまるやま）	佐賀県佐賀市	移設保存	古墳群と石室	1984. 3.21	(7,455.0) 敷地面積	県指定重文（４基石室）	佐賀市教委
塚原古墳群（つかはら）	熊本県下益域郡城南町	トンネル工法	古墳時代の墳墓群	1976.12.27 1987. 1. 8 1990. 6.28	131,793.0 2,376.0 555.0	国指定史跡	野田拓治他 1975

1979年には，新潟県柏崎市の下谷地遺跡，長野県の阿久遺跡[17]がそれぞれ保存対策を措置した上で指定されている。

全国的に開発事業が隆盛し，各地で遺跡の保存が叫ばれる時であった。その他，1984年には盛岡市の志波城跡[18]が盛土構造の一部を高架橋にして保存，1987年には前述の塚原古墳群が追加指定された。1994年３月には綾部市の私市円山古墳で五世紀中頃の大規模円墳をトンネル工法で保存し，史跡に指定された。また，1997年３月には弥生時代後期の集落跡の富岡市中高瀬観音山遺跡[19]もトンネル工法で損壊を回避され，史跡に指定された。1998年12月に高崎市の日高遺跡[20]は，弥生時代の水田跡が高架橋に変更して保存された。

以上のように，1976年からの20年間に道路路線上に所在する11か所の遺跡が何らかの手法により保存された。その方法は，遺跡をトンネル工法で保存した例が４例，高架橋でまたいで保存した例が同じく４例，また，遺跡に盛土して保存した例が２例，古墳群と石室を移設保存した例が１例挙げられる。このように道路の計画路線を変更せずに遺跡の直下をトンネルにするか，それとも遺跡上を高架にして破壊を食い止めるか，地形を考慮に入れての回避策を実施した例である。

ここで参考として，道路公団が普及用に制作した資料を示したい。事業者としても埋蔵文化財の調査を積極的に広報するようになってきた例である。第５図は、ＪＨ日本道路公団が広報用に頒布している「高速道路と埋蔵文化財」の部分である。壁新聞仕様で大きく貼り出すよう作られており，高速道路と埋蔵文化財保護の関係や日本の歴史がひと目でわかるように工夫されている。「埋蔵文化財を守るため，高速道路を造るときはいろいろな人が話し合い，様々なことを調べて工事をはじめるんだ」として，高速道路が

第５図　日本道路公団「高速道路と埋蔵文化財」THE MAIZOU SHINBUN　部分

できるまで，その計画・決定―高速道路の調査，開始指示―埋蔵文化財分布地図―高速道路建設の施行命令―測量・土質調査―設計協議―用地測量・調査―用地取得―埋蔵文化財調査―工事―完成と一連に流れを紹介している。

（2） 荒屋敷貝塚の保存経過と日本考古学協会の保存要請活動

本項においては時間を追って経過を示したい。

1964年（昭和39年）京葉道路の延伸計画が決定，路線上に荒屋敷貝塚

1971年（昭和46年）3月～8月，高架方式，隧道方式，盛土方式について，工法上の具体的な検討に入る。

1972年（昭和47年）9月「千葉市の遺跡を守る会」から荒屋敷貝塚及び荒屋敷西貝塚について現状保存を講ずる請願あり（継続審議）（10月4日　議会事務局受理）[21]

同年，10，11月　盛土方式　地耐力テスト　適切でないとの結論

同年，12月　定例県議会（文教常任委員会）「貝塚町貝塚群の保護について」請願一部採択[22]

同年，12月　文化庁，日本道路公団　高架方式が適切との意見一致，県教委了解

1973年（昭和48年）2月，定例県議会（文教常任委員会）「貝塚町貝塚群の保護について」請願採択[23]

同年5月21日　道路公団，遺跡部分を橋梁で通過することとしたいと回答

同年，文化庁　県教委，市教委，道路公団，建設省に貝塚の試掘調査を要請

貝塚部分に高架橋案提案，高架橋の橋脚部分の発掘計画浮上。

1974年（昭和49年）10月6日，朝日新聞「荒屋敷貝塚保存論議再燃か」。地域住民，高架橋による騒音，排気ガス，電波障害で反対運動

1975年（昭和50年）12月15日，貝塚町貝塚群について，保存要望に取り組む[24]。

1976年（昭和51年）1月12日　日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会委員長　桜井清彦　「千葉市荒屋敷貝塚の保存に関する要望書」・高架計画反対

同年1月14日，文化庁・道路公団へ桜井委員長，荒屋敷貝塚保存要望書を携えて要請。

同年1月19日，貝塚町貝塚群保存要請活動の報告。

同年2月23日，貝塚町貝塚群と荒屋敷貝塚の現状について報告。

同年3月13日，荒屋敷貝塚問題で，道路公団は至急着工の線，文化庁，建設省は保存の方向。地元住民は高架化反対，オープンカット案かトンネル案。地元で日本考古学協会のシンポジウム開催の要請あり。

同年4月24日，荒屋敷貝塚の県文化財センターによる調査の後の現状を視察。荒屋敷貝塚の現状から，京葉国道をトンネル化するのが保存に適当。協会総会決議を提案すること。今夏シンポジウムを計画することを決定。

同年5月8日　日本考古学協会委員長　乙益重隆　「貝塚町貝塚群の保存についての要望書」

同年6月21日，9月に「シンポジウム貝塚町貝塚群」を千葉市で開催し，現状，貝塚論，保存の意義について研究を進めるとともに，市民・住民のアピールすることを確認した。

同年7月19日，シンポジウムについて千葉県市民を対象として，広く行政・地元研究団体の後援・協賛を得て行なうこと。発表者分担などを決める[25]。

同年8月16日，シンポジウム後援申請を出していた県教委・市教委から，荒屋敷貝塚保存については賛否両論があるので，行政としての後援は辞退するとの回答があった。県博協から承諾あり。協賛5団体よ

第6図　荒屋敷貝塚の報道記事

りも承諾。

同年9月15日，千葉市内の千葉県労働者福祉センターで「貝塚町貝塚群と原始集落」が開催された。主催は日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会，後援は千葉県博物館協会であった。「貝塚とは何か」「馬蹄形貝塚と集落」「貝塚町貝塚群の現状とその歴史的意義」の基調講演があり，その後質疑応答，討論があった（第7図）。150名参加を得て成功する。『公開講演とシンポジウム資料　貝塚町貝塚群と原始集落』日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会編集

同年10月18日[26]，加曽利貝塚・貝塚町貝塚群の保存要望書を再度，文化庁・県教委・市教委・道路公団へ提出し，回答を要求した[27]。

同年10月25日，日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会委員長　樋口隆康「加曽利貝塚ならびに貝塚町貝塚群の保存に関する要望書」

公開講演とシンポジウム資料

貝塚町貝塚群と原始集落

日時　1976年9月15日
場所　千葉県労働者福祉センター

はじめに……京都大学教授　樋口隆康
貝塚とは何か……慶応義塾大学助教授　鈴木公雄
馬蹄形貝塚と集落……明治大学教授　戸沢充則
貝塚町貝塚群の現状とその歴史的意義
……千葉市立高等学校教諭　宍倉昭一郎
質疑応答・討論

主催　日本考古学協会埋蔵文化財保護対策委員会
後援　千葉県博物館協会
協賛　「史館」同人・発掘者談話会
「奈和」同人・下総考古学研究会
千葉市の遺跡を守る会

第7図　シンポジウム資料

1977年（昭和52年）1月24日，四者協議（文化庁，道路公団，県，市教委）トンネル案について

同年2月14日，道路公団，地下構造（トンネル）に変更可能と判断。宍倉昭一郎「荒屋敷貝塚部分トンネル案について－千葉市貝塚町貝塚群の保存－」

同年2月21日，貝塚町貝塚群。荒屋敷貝塚トンネル化案の検討[28]。

同年3月17日，貝塚町貝塚群の経過報告。

同年4月14日，荒屋敷貝塚問題，トンネル化工法の検討。

同年4月30日，「千葉市貝塚町貝塚群の保存についての要望」日本考古学協会委員長　乙益重隆

同年6月15日，「貝塚町貝塚群の保存要望について」（回答）日本道路公団　東京第1建設局長持田三郎[29]

同年6月23日，貝塚町貝塚群問題　県教委が無回答なので現地交渉することを予定。

同年7月5日，「貝塚町貝塚群の保存要望について」（回答）千葉市教育委員会教育長長谷川喜三郎

同年８月23日，千葉県教委交渉

同年９月16日，貝塚町貝塚群　千葉県教委の報告，討議。

同年10月28日，貝塚町貝塚群の保存問題、トンネルによる一部破壊を遺憾とする[30]。

同年10月　埋文委事務局「荒屋敷貝塚は助かったか－千葉県大野城址，貝塚町貝塚群についての対県教委交渉をめぐって－」

1978年（昭和53年）５月５日，「千葉市貝塚町貝塚群の保護に関する決議」日本考古学協会1978年度（第44回）総会[31]

同年５月８日，日本考古学協会1978年度（第44回）総会「貝塚町貝塚群」等貝塚見学会（考古学協会会員等60名参加）

1979年（昭和54年）３月13日　文部省告示第28号で史跡指定。

1980年（昭和55年）10月１日，京葉道路供用開始。

1964年（昭和39年）に東京と千葉を結ぶ京葉道路の延伸計画と国道14号・16号のバイパス道路が決定され，その路線上に荒屋敷貝塚が所在することから，その取り扱いが注目された。しかし，荒屋敷貝塚は，学術的な調査は行われておらず，1968年（昭和43年）に千葉市立加曽利貝塚博物館による地形測量が行われただけであった。行政の対応とすれば，荒屋敷貝塚の保存が称えられているが，現状の把握が十分でないことから，その規模や時期について遺跡の概要を捉え，道路建設の是非を問うといった対策を検討する上でも，1973年（昭和48年），貝塚の試掘調査を要請した。これを受ける形で当時の千葉県都市公社文化財調査事務所が確認調査を実施，調査結果は前述のとおりである。これが第１次調査である[32]。

この結果を受けて，関係機関が協議したところによると，現状保存するためには貝塚に高架橋を架けることが最善とされた。このため、その高架橋の橋脚部分の調査が計画され，1975年（昭和50年）11月から１月にかけて，千葉県文化財センターが確認調査を実施，調査結果は前述のとおりである。これが第２次調査である[33]。しかし，この時点で付近住民から高架橋による，自動車騒音及び排気ガス，地上構造物による電波障害等の不安が示され，生活環境を守るという立場でこの計画に反対の声が出てきたため，再度関係機関で協議して，1977年（昭和52年）１月，道路を地下にするトンネル方式に変更するとされ，遺跡の取り扱いもいよいよ最終に至ったのであった。

当時文化庁では，長野県内の中央道でも路線内に重要遺跡が確認され，取り扱いが検討されていた[34]。その協議の状況などは，衆議院，国会決算委員会の質疑の席上でも答弁されている[35]。これらの議論からも，この千葉県における荒屋敷貝塚をどのように残すかが検討されていたと推察できるのである。

荒屋敷貝塚のトンネル方式への変更工事に伴う調査が計画され，1977年（昭和52年）４月から９月にかけて，千葉県文化財センターが発掘調査を実施，調査結果は前述のとおりで，これが第３次調査である[36]。

これら３次にわたる確認，発掘調査により，遺跡は環状貝塚中央部に空間を持ち，それを取り囲むように貯蔵用の竪穴群，住居が構築された直径150mを測る環状の集落跡であった。貝塚は南側に開口する馬蹄形で，東西160m，南北150mを測る，保存状態の比較的良好で大規模な縄文時代の遺跡であった。その結果，高速道路の貝層下貫通はあったが，1979年（昭和54年）３月13日（文部省告示第28号），史跡に指定されたのである。

5．終わりに

千葉県内では，現在9か所の貝塚が国史跡に指定され[37]，7か所の貝塚が県史跡に指定されている[38]。また，県内に所在する貝塚について，その規模や遺存状態の確認調査を実施しており，貝塚に対する保存施策は充実している[39]。

この大規模で，保存状態が良好な荒屋敷貝塚については，1971年以降，開発に伴う対応が求められた。

・貝塚を壊さずに保存するにはどうしたらよいか。

・京葉道路も建設しなければならない。

・住民の生活環境を破壊してはならない。

これらの課題に対して何をどのように調整するかについては，前述のとおり協議検討が加えられたのである。

荒屋敷貝塚に託す考古学的な事項は，

① 首都圏にありながら，景観を含め歴史的環境を残す遺跡として保存し，活用する。

② 近接の史跡加曽利貝塚と同様に雄大で，規模が約23,000m²にも及ぶ大集落の遺跡である。

③ 縄文時代中期前半から後期にかけての集落跡で，当時の生活の状況や集落の変遷，生産活動を具体的にすることができる遺跡である。

④ 調査の結果，良好な貝塚の保存状況が確認されている。

⑤ 大規模で，また厚く堆積している貝層は，縄文文化の生産活動等すべての面で解明するためのデータを提供できる。

⑥ 集落の構造は，遺跡中央にほぼ円形の空間，その周辺に墳墓と住居と貯蔵施設，外側に環状に貝層を形成し，集落が同心円状の形態を有する，居住形態の典型例である。

このように整理されよう。

まだまだ貝塚が内包する豊富なデータを活用できなかったり，データそのものが十分提示されていない現状がある[39]。このことに留意しながら，縄文文化研究に損壊を免れた荒屋敷貝塚が大いに活用されることを期待したい。今後，荒屋敷貝塚が提供できるデータは無限である。

今回，資料を集めるに際し多くの方々に御協力いただいた。千葉県議会図書室　倉内郁子氏，谷鹿栄一氏には議会に提出された請願に係る資料確認では大変お世話になった。

第1表で，道路建設と国指定史跡等の保存状況を参考とするに際し，盛岡市教育委員会文化課文化財係津嶋知弘氏，古川市教育委員会生涯学習課文化財保護係，柏崎市教育委員会文化振興課埋蔵文化財係品田尚道氏，高崎市教育委員会文化保護課，富岡市教育委員会文化振興課文化財担当井上氏，綾部市資料館，佐賀市教育委員会文化課文化財係，城南町教育委員会には，指定史跡の面積等に関する御教示を得ました。厚く御礼申し上げます。

註

（1）千葉県文化財センター　1986『千葉市荒屋敷北貝塚・谷津上・須磨掘遺跡』

（2）宍倉昭一郎　1972「千葉市貝塚町貝塚群の危機と意義」『文化財保存対策協議会連絡誌』

（3）佐藤順一編　1999『千葉市榎作遺跡・網田遺跡・宇津志野遺跡群・海老遺跡・荒屋敷貝塚』千葉市文化財協会

（4）酒詰仲男　1951「地形上より見たる貝塚」考古学雑誌第37巻第11号　日本考古学会

（5）西山太郎　1974『千葉市荒屋敷貝塚―遺構確認調査報告書―』千葉県都市公社

（6）中山吉秀・森　尚登　1976『千葉市荒屋敷貝塚―貝塚外縁部遺構確認調査報告―』千葉県文化財センター

（7）小澤智生　1978「東京湾地域における縄文海進期の自然環境とイボキサゴの繁殖」『考古学と自然科学』11号

（8）安井健一　1999「14C年代の意義と課題」『貝塚出土資料の分析』研究紀要19　千葉県文化財センター

（9）種田斉吾・斎木　勝　1978『千葉市荒屋敷貝塚－貝塚中央部発掘調査報告書』千葉県文化財センター

（10）奈良忠寿　1999「荒屋敷貝塚出土の縄文時代中期の土器について」『貝塚博物館紀要』第26号

（11）註３に同じ

（12）千葉市教育委員会文化課　1999「荒屋敷貝塚」『平成10年度埋蔵文化財調査（市内遺跡）報告書』

（13）岡村　渉編著　2000「特別史跡登呂遺跡発掘調査概要報告書Ⅰ」静岡市教育委員会

（14）斉藤吉弘・高橋守克　1980「宮沢遺跡」『東北自動車道遺跡調査報告書Ⅲ』宮城県文化財調査報告書第69集

（15）野田拓治ほか編　1975「塚原　熊本県下益城郡城南町所在塚原古墳群の調査」熊本県文化財調査報告16

熊本県教育委員会　1976「塚原古墳群調査報告書」

（16）1978「荒屋敷貝塚」『月刊文化財』

（17）長野県中央道遺跡調査会調査団　1978「長野県諏訪郡原村阿久遺跡発掘調査概報」

（18）津嶋知弘ほか編著　1999「志波城跡―平成８・９・10年度発掘調査概報－」盛岡市教育委員会

（19）富岡市教育委員会　1993「中高瀬観音山遺跡範囲確認調査報告書」富岡市埋蔵文化財発掘調査報告書17

坂井隆也編著　1995「中高瀬観音山遺跡　群馬県富岡市関越自動車（上越線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書」

坂井隆也・松倉紘洋　1998「群馬県中高瀬観音山遺跡の保存とその活用」『明日への文化財』第41号

（20）群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団編　1982「日高遺跡」関越自動車道（新潟線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書５

（21）1972年（昭和47年）９月定例県議会

10月７日　文教常任委員会付託

貝塚町貝塚群の保護について

「１．千葉市貝塚町貝塚群の歴史的関連性を究明するために周辺地域の破壊の進捗を防止し保護措置を講ずること。

２．特に京葉道路四期工事および国道51号線バイパス工事にかかる荒屋敷貝塚ならびに荒屋敷西貝塚について現状保存の策を講ずること。」

10月13日　文教常任委員会報告　結果

継続審査

（22）1972年（昭和47年）12月定例県議会

12月23日　文教常任委員会　結果

請願435号　貝塚町貝塚群の保護について　１．採択

２．継続審査

(23) 1973年（昭和48年）2月定例県議会

3月26日　3月15日付け　請願の処理経過および結果について

貝塚町貝塚群の保護について

「1．千葉市貝塚町には，荒屋敷貝塚、草刈場貝塚，荒屋敷西貝塚等の重要遺跡が集中して所在するため保護上留意すべき地域の一つである。このため，文化庁千葉市等関係機関と協議し，開発事業者はもとより，個人の宅地造成等による遺跡の蚕食を防止するため，遺跡所在地内のおける農地転用，宅地造成等に対する事前協議制の徹底，強化の措置を講じている。」

3月26日　文教常任委員会報告　結果

「2．採択」

『千葉県議会会議録』昭和48年2月定例第8号

1973年（昭和48年）6月定例県議会

6月30日　6月25日付け　請願の処理経過および結果について

請願第435号　貝塚町貝塚群の保護について

「2．千葉市貝塚町に所在する貝塚群は，周辺地域の急激な土地開発の影響をうける状態にあり，保存について緊急な対策が必要となっている。

とくに京葉道路（四期）工事にかかる荒屋敷貝塚については，適切な保存を図るため関係機関と，（1）道路の迂回による保存，（2）隧道による保存，（3）土盛りによる保存，（4）高架による保存等の諸点について検討してきた。

このうち（1）道路の迂回による貝塚の保存については，都市計画の大幅の変更，貝塚の前後2キロメートルに及ぶ用地再取得などがあり，地域住民に与える影響が大きく，実施困難である。

（2）隧道による貝塚の保存については、地盤が弱いため，貝塚に及ぼす影響が大きいうえ貝塚隣接地の地下には、川鉄給水管等が埋設されているなど，実施上問題がある。

（3）土盛りによる貝塚の保存については関係機関と協議のうえ昨年11月に地耐試験を実施した結果によると，降伏荷重は1へーべ当り3.1トンであり，これは盛土の高さ約1メートル弱で，貝塚の内部が破壊されることを意味しており，保存対策としては適切でないことが明らかになった。

（4）高架による貝塚の保存については，工事費が多額（3,000,000千円～4,000,000千円）を要するが，道路計画を変更しない場合の貝塚の保存方法としては，最も適切と考える点では，文化庁の見解も一致している。なお工事者である日本道路公団においても高架による現状保存を決定し，現在工法等について技術的な検討をおこなっており，近く具体策の決定をみるはこびになっている。

つぎに荒屋敷西貝塚については国道51号バイパス工事との重なりではなく，千葉市都市計画街路（全長5キロメートル，幅員25メートル）が同貝塚上をとおる計画となっているので，千葉市に対して道路計画の再検討をもとめた結果，千葉市においても同貝塚の現状保存のため、道路計画の変更等万全の対策を検討することとなった。

また，草刈場貝塚については，京葉四期・国道51号線バイパス・千葉市都市計画街路等いずれの道路計画とも重ならないので，道路による破壊は現段階では考えられないが，貝塚周辺地域の開発もすすんでいるので都市，計画の中で都市公園として保護するよう関係機関と協議中である。

『千葉県議会会議録』昭和48年6月定例第5号

(24) 日本考古学協会　1976『日本考古学協会会報』№59

(25) 日本考古学協会　1976『日本考古学協会会報』№60

(26) 日本考古学協会　1977『日本考古学協会会報』№61

(27) 日本考古学協会　1976「貝塚町貝塚群の保存についての要望書」考古学ジャーナル123号

(28) 日本考古学協会　1977『日本考古学協会会報』№62

(29) 日本考古学協会　1977『日本考古学協会会報』№63

(30) 日本考古学協会　1978『日本考古学協会会報』№64

(31) 日本考古学協会　1978『日本考古学協会会報』№65

(32) 注5に同じ

(33) 注6に同じ

(34) 平出一治　1980「阿久遺跡この一年」長野県考古学会誌第37号

(35) 1977年（昭和52年）12月7日　衆議院第83回国会決算委員会

当時中央道建設に際し，その路線内に確認されていた長野県阿久遺跡の保存問題について，原茂氏が質問し，文化庁と日本道路公団が答弁している。

文化庁文化財保護部記念物課長　横瀬　庄次氏

「～そういう遺構の保存が可能な工法が技術的にあるのかどうか，そういった点を現在道路公団の方に検討をお願いしているところでございます。」

日本道路公団理事　伊藤　直行参考人

「～この調査結果の重要性に基づきまして，路線変更かまたは設計変更等による遺跡の保存方法について正式に意見の照会が参っております。教育委員会と文化庁，いろいろな指導によりまして最も適当な方法で持っていきたいということで現在考えている。」

(36) 注9に同じ

(37) 国史跡として良文貝塚（1930年，小見川町），堀之内貝塚（1964年，市川市），阿玉台貝塚（1968年，小見川町），加曽利貝塚（1971年，千葉市），山崎貝塚（1976年，野田市），姥山貝塚（1977年，市川市），月ノ木貝塚（1978年，千葉市），曽谷貝塚（1979年、市川市），犢橋貝塚（1981年,千葉市）の9か所の貝塚が指定されている。

(38) 県史跡として，野田貝塚（1936年,野田市）,長谷部貝塚（1960年,千葉市），西の城貝塚（1966年,神崎町），藤崎堀込貝塚（1967年,習志野市），下小野貝塚（1978年,佐原市），東寺山貝塚（1980年,千葉市）,上座貝塚（1982年,佐倉市）の7か所の貝塚が指定されている。

(39) 昭和63年度から平成9年度まで，10次にわたり「県内主要貝塚確認調査事業」を実施。千葉県文化財センター　1999「貝塚出土資料の分析－重要遺跡確認調査の成果と課題2－」

(40) 西野雅人　1999「縄文中期の大型貝塚と生産活動―有吉北貝塚の分析結果」『貝塚出土資料の分析』研究紀要19　千葉県文化財センター

参考文献

青沼道文　1990「千葉市域の縄文中期後半期遺跡の分布と立地　東京湾東岸における縄文中期終末期集落研究の指針（1）」『貝塚博物館紀要』17号

後藤和民　1974「東京湾東岸の貝塚群とその保証」『考古学研究第21巻2号

後藤和民　1978「貝塚町貝塚群」『京葉の貝塚－市川・松戸・千葉の主な貝塚―』日本考古学協会大森貝塚調査100年記念事業委員会

斎木　勝　2000「荒屋敷貝塚」『千葉県の歴史　資料編　考古1（旧石器・縄文時代）県史シリーズ9』

佐賀市教育委員会『よみがえった久保丸山遺跡』

宍倉昭一郎　1976「千葉市の貝塚群」『開発と保全－自然・文化財・歴史的環境』ジュリスト増刊総合特集№4

宍倉昭一郎　1995「荒屋敷貝塚と貝塚町貝塚群（千葉県）」『明日への文化財』36,37合併号

千葉市史編纂委員会　1976『千葉市史　資料編1』

千葉市の遺跡を守る会　1973「危機に立つ千葉・貝塚町貝塚群」考古学ジャーナル第79号

日暮晃一・宍倉昭一郎　2004「千葉市の貝塚群」日本考古学協会第70回（2004年度）総会研究発表要旨

古川市教育委員会　1994『史跡宮沢遺跡「愛宕山地区」保存整備報告書』古川市文化財調査報告書第16集